

# 田辺工業 21年ぶり4強

## 那須が投打に活躍

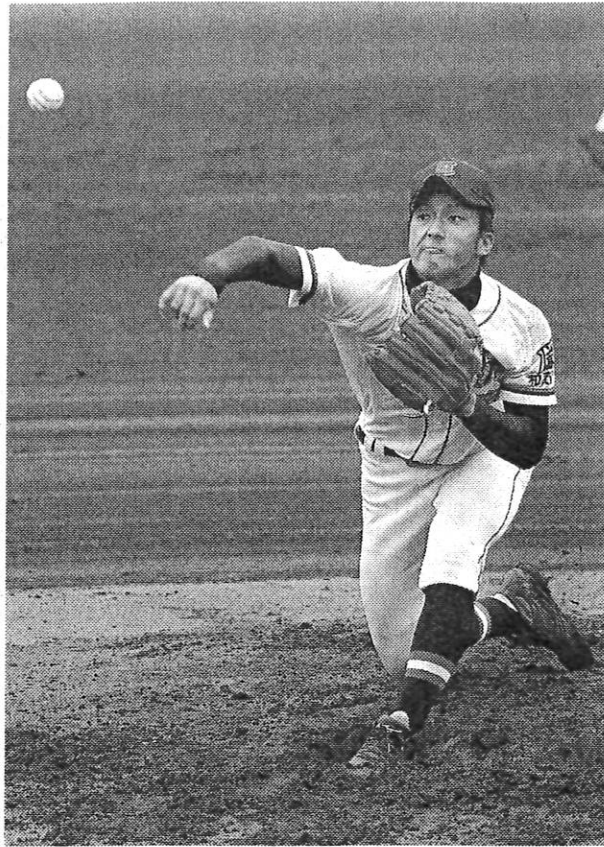
全国高校野球選手権和歌山大会の準々決勝2試合が23日、和歌山市の紀三井寺球場であり、第1試合で田辺工業が21年ぶり3回目の4強入りを決めた。田辺工業は、第2試合で勝った和歌山商業と25日の準決勝で対戦する。

(一部既報)

①第1試合

田辺工業	0010200000
和歌山工業	0010000000
得点	3
先頭打者	那須悠哉

田辺工業は3回、先頭の湯



田辺工業一和歌山工業 投打に活躍した田辺工業の那須悠哉投手 (23日、和歌山市の紀三井寺球場で)

田辺工業 打安点

[中]	岡	田	4	0	0
[一]	木	和	4	3	1
[三]	和	須	4	0	2
[投]	須	田	4	2	2
[右]	田	池	4	2	0
[左]	池	上	3	1	0
[捕]	上	中	2	0	0
[二]	中	川	3	3	1
[振]	川	残	3	3	4
球	残		3	2	0
併			0	3	2
球			3	2	9
振			3	4	3

和歌山工業 打安点

[遊]	山	東	5	1	0
[中]	古	川	3	2	0
[左]	上	晃	4	1	0
[一]	鎌	田	3	0	0
[投]	中	谷	4	2	1
[右]	金	本	3	1	0
[捕]	木	前	4	0	0
[二]	前	西	2	0	0
[右]	野	野	2	1	0
[投]	橋	橋	1	0	0
球	残		1	1	0
併			0	1	1
球			1	9	3
振			5	4	0

投手	回	安	責
那須	9	7	1
金野	5	7	3
水野	4	2	0

川が二塁打で出塁。岡田が送りバントを決めて1死三塁とし、続く柏木の適時打で先制した。その裏に同点にされるが、5回に1死二塁から那須が左翼スタンドへ2点本塁打を放って勝ち越した。那須は先発投手としても要所を締める投球で、この2点差を守り抜いた。

試合後、稲垣友輔監督は「選手たちがたくましく見えた。練習を一生懸命やってくれた成果だと思う」と話した。準決勝については那須は「ここまで来たら相手はどこも格上。チャレンジャーの気持ちで戦いたい」と抱負を語った。

①第2試合  
和歌山商業2-0紀央館

①準決勝(25日)の組み合わせ  
第1試合(午前10時)  
智弁和歌山-箕島  
第2試合(午後0時半)  
和歌山商業-田辺工業



### 田辺工業

「一番叱った部長」と監督の稲垣友輔(34)が挙げるのは3年の湯川信哉だ。湯川は自覚していた。

## 「叱られた」努力の人

「守備で消極的になった打ち込んだ。同じような三振をした。練習試合でエラーが多かった。克服し、部活後はいつも最後まで残って、守備練習に

工業戦は相手を研究し、狙い球を絞って臨んだ。先制点が欲しい3回、湯川は速球を狙い打ちし、二塁打で出塁。柏木峻太(2年)の適時打で生還した。同点で迎えた5回にはエ



二塁打で出塁し、先制のホームを踏む湯川信哉

た。それでも、帰宅したら再びバットを振った。「最後の夏、悔いを残したくない」との思いからだ。その成果は出た。3回戦の初芝橋本戦こそノーヒットだったが、1回戦の橋本戦では同点打を放ち、その回猛攻6点の口火を切った。次の串本古座戦でも先制スクイズを決め、コールド勝ちにつなげた。

9番打者で入った和歌山

(敬称略)